

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ふらっが高陽		2026年 2月 2日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・十分な広さが確保できている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8		・適切な配置数で対応している	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・運動スペース、療育スペース、相談室、休憩スペース、クールダウンスペースをそれぞれ設けて構造化している	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・活動内容に合わせて場所を移動したり、椅子や机の位置を変えるなどの工夫をしている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・イライラした時に必要となる静かに過ごせる空間「すっきりルーム」や、個別活動ルームを設置している	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		・療育の前後の打ち合わせ、週1回の全体ミーティング、月一回の全体研修を実施している	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・年度末に市で共通のアンケートの他に、事業所独自のアンケートを実施し、保護者の意向等を把握し、業務改善に努めている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・業務スタート時に全員で、各療育前に担当スタッフでミーティングを実施し、配慮事項の確認と共に、業務の改善に心がけている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		弁護士を含む第三者委員会により、年度末に評価を行い、結果を業務改善につなげている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・月1回のスタッフ研修、うち6～7回は専門家による研修を開催 ・各自で必要な研修会を受講する機会がある	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		・日々の療育ごとに支援プログラムを作成し、その都度保護者に公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		・全ての子どもを客観的アセスメントシートを用いて評価・分析を実施した上で支援計画を作成している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・週1回の全体ミーティングで療育の情報共有と振り返り・助言等を行い、子どもの最善の利益を考慮した検討を実施している	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・いつでもだれでも職員でみられるようにクラウドで保管、管理されている ・ミーティングの際、共有している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		・全ての子どもを標準化されたアセスメントを用いて評価したり、日々の行動観察を実施したりして、適応行動の状況を確認している	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・発達検査結果の共有、療育センター、専門相談員からの紹介や情報交換などを参考に、子どもの支援に必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容が設定されている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・各時間の療育リーダーを中心に担当スタッフ全員でプログラムを立案している	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・月毎に運動メニュー、SELメニューを変更している	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		・子どもの発達課題に合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせた支援計画を作成し、実践している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎療育の前後に必ず担当スタッフ全員で打合せを行い、子ども達ひとり一人についての目標を設定し共有している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		・日々の療育終了後、必ず振り返りを実施している。また週1回のミーティングにて一週間の振り返りを行い、全員で共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・日々の支援記録を必ずとり、支援の検証・改善につなげている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		・週1回の全体ミーティングで活動計画の見直しを実施し、常に改善を行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・会議には、その子どもを担当しているスタッフが出席している。終了後には、全スタッフに会議での内容を情報共有している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	・多職種連携の重要性を肝に銘じ、主治医、相談支援員、園や学校の担任と連携する体制を整えている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	3	・情報共有と相互理解の体制を整えているが、双方の予定が合わず、思うように園・学校訪問や情報共有などを実施することが難しい場合もある	・利用者の増加とともに、園・学校訪問や情報共有が以前のようにできないケースがある。今後の課題であると考えている
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	3	・安佐北区通所事業所連絡「りんくりんく安佐北」に定期的に参加しており、助言等を受ける機会を設けている	・今後、地域の児童発達支援センターとの連携ができれば良いと考えている
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	・利用者のきょうだいの交流機会を計画的に持っているが、地域での交流は療育プログラムの性質上、難しい面がある	・今後の課題として取り組んでいきたい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・毎回療育後、保護者に報告、説明を必ず行っている。また必要に応じて個別面談を実施し、共通理解を図っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		・ペアレントトレーニングを実施している ・年1回保護者研修会を開催し、保護者研修に努めている	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・契約時に詳しく説明して納得していただいている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・支援計画の作成の際には、必ず子どもや家族の意向を確認する機会を設けている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		・相談室にて、担当スタッフが支援計画を示しながら具体的な説明を丁寧に行っている 必ず同意を得た上で実践している	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・6か月ごとに全保護者と個別面談を行っている。また、必要に応じて個別面談やカウンセリングを実施している	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8		・保護者スペースを設け、保護者が自由に交流できるようにしている また月に1回、全グループで情報共有と交流の場である《おしゃべり会びあ》を開催したり、きょうだい同士で交流する機会を設けている	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		相談や申し入れがあった場合は、迅速にかつ適切に面談やカウンセリングという形で対応している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		必要に応じて紙面やメールで情報提供をしている。また、HP、ブログなどを通して、活動内容や行事予定等を発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・十分留意している	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		・分かりやすく誤解がない意志の疎通や情報伝達方法を常に配慮しながら対応している	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	・地域の未就学児を招いたり、老人福祉施設と交流するなどの活動を実施していたが、コロナ禍を契機に中断している	・地域との関わりは大切であるので、今後の課題として検討していきたい
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルを作成し実施している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		BCPを策定し訓練を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・入所契約の際に必ず確認している	・現在は該当者はいない
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・入所契約の際に必ず確認し対応している	・現在は該当者はいない
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・マニュアルの作成、対応職種（担当）の確認をしている ・月1回、設備の点検を行っている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・HP、お知らせプリント、掲示物を活用して情報を提供し、保護者に周知している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・報告書を作成し事業所内で確認し共有している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・年1回の研修を実施している	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	・対応が必要な該当児がいる場合は、その都度保護者とスタッフで話し合いの上、保護者の了承を得ている	・現在は該当者はいない